

令和8年5月28日

白糠町教育委員会教育長 川島眞澄 様

北海道教育大学釧路校名誉教授

北海道文教大学学長 玉井康之

令和7年度白糠町教育委員会の行政点検評価報告に伴う評価コメント

白糠町の学校教育の大きな目標として、「実社会で生きる実践的な力」の育成を目指している。この点は、学校教育内容の知識・理解に留まらず、それを活かして地域社会や他人に貢献する学びの高度化につながるものである。OECDの目指すべき理念では、活用型資質・能力を目指しており、「実社会で生きる実践的な力」は、まさにそれを体現するものである。欧米では、“Learning by Doing”の理念が学修の基盤であるが、白糠町では、古くから「ふるさと教育」による愛郷心と社会貢献活動を中心に展開しており、実践的に学んだ知識を地域社会に生かした活動であり、先進的な到達点を成し遂げている。このふるさと教育は、子ども達の地域への誇りとアイデンティティを高める上で、貴重な教育活動となっている。

またこの「ふるさと教育」を推進するにあたり、白糠町では、認定こども園の「アプローチカリキュラム」や小学校の「スタートカリキュラム」、そして義務教育学校の「小中一貫教育」、中高の進路指導など、幼小中高の体系化した学び合いを推進している。これらの連続カリキュラムの取り組みは、えてして学校種ごとに分離した教育を、連結した連続教育カリキュラムに具現化するもので、生涯学習の基礎をなすものである。

さらに白糠町では、コミュニティスクールを積極的に進めており、学校教育と地域教育を結節している。地域住民が学校に関わることによって、実は、地域住民がつながるまちづくりになっている。同時に子ども達が地域活動に関わることによって、学校での基礎教育を実践的な学びに高度化し、結果として学校の特色づくり・学校づくりになっている。このコミュニティスクールでの、地域づくりと学校づくりが相互規定的に展開していることが「実社会で生きる実践的な力」をより強固なものにしている。

社会教育においても、家庭の教育力を向上させる支援を充実させると共に、読書機会の

充実を積極的に推進している。近年のスマホ等の普及により、言語力・コミュニケーション力も低下したと言われるが、これらの教育活動は、子ども・市民の発達を多面的に深めると共に、地域全体の文化活動を促進する基盤となる。郷土芸能の伝承活動では、歴史・文化の伝承と若手継承者の発掘を進めている。また健康づくりの一環として、生涯スポーツを推進しており、多様なスポーツイベントも実施できている。スポーツ施設の利活用および指導者の育成研修も進めながら、スポーツを通じた住民交流やまちづくりにもつながっている。

道東地域においては、急速な過疎化の中で、まちづくりが重要な課題となっている。また子ども達の発達はトータルな発達が求められている。これらの学校教育活動・社会教育活動を連動させながら進めている白糠町の教育行政は、学校づくりと地域づくりを併せ持つ総合的な教育活動として、高く評価できるものと言える。